

石狩川流域委員会(第3回) 議事要旨

■日 時：平成29年6月28日(水) 10:00~12:00

■場 所：北海道開発局研修センター2階講堂

■出席者：黒木委員長、中村副委員長、井上委員、上田委員、定池委員、平澤委員、
山田委員(以上7名)

■議事要旨

(1) 雨竜川における治水対策の計画段階評価案について

・比較案にある「さらなる既設ダムを活用」とは、雨竜ダム以外にも新たな施設を想定しているということか。(委員)

→主に第1、第2ダムの予備放流・事前放流を想定。一方で、鷹泊ダムの活用というご意見を踏まえて記載の表現とした。(事務局)

・上流域の降雨であれば今回の案は有効だが、中流域の降雨の場合、鷹泊ダムの活用が有効という意見が前回あったと思う。中下流域で集中したS63降雨等、降雨パターンによっては掘削案が有効になる場合も考えられるのではないか。(委員)

→S63洪水については、超過洪水としての扱いであるが、下流集中の場合もあって、鷹泊ダムが必ずしも有効とならない場合もある。(事務局)

→洪水パターンについては今後の課題でもあり、継続して検討していただくという整理にしたい。(委員長)

・決壊しない堤防・決壊しづらい堤防を検討対象から外した理由は。(委員)

→決壊しない堤防というのは、技術的に難しく対象外としている。決壊しづらい堤防に関しても流下能力の確保からは有効ではなく、計画を超える洪水に対する減災としての効果が期待されるという整理をしている。(事務局)

・水田貯留などの流域貯留によって治水対策した事例は実際あるのか。(委員)

→石狩川流域では、深川市で水田貯留を実施している。(事務局)

・遊水地案とダム案に記載されている河道掘削分の費用について、ダム案の費用が約30億円高いのはなぜか。(委員)

→遊水地案は掘削土の一部が遊水地の周囲堤等に流用可能であるのに対し、ダム案の掘削土は処理費が必要となるため高く計上される。(事務局)

(2) 前回の委員会での意見について

- ・危機管理型ハード対策について、注釈を付けるなど記述を精査してほしい。(委員)

- ・危機管理型ハード対策について、避難までの時間を稼げるというが、どの程度なのか定量的に示すことはできないか。(委員)
→定量的に示すことは難しいと思うが、継続して検討していただきたい。(委員)

- ・ヤツメの生息に関しては河道掘削が影響するが、特に中下流部では掘削範囲に入っていないので影響は小さいと考えられる。生息調査は継続して頂きたい。(委員)
→了解した。(事務局)

- ・計画段階評価で生物環境に対する評価が少ないが、そのあたりはどうか。(委員)
→現状は、既存の限られた情報により評価を行っているところ。実調の段階において詳細に調査していきたい。(事務局)

- ・事前放流は、「操作ルールの変更」に含まれるという理解でよいか。(委員)
→その通りである。(事務局)

(3) 石狩川水系雨竜川河川整備計画 [変更] 原案に寄せられた意見について

- ・砂利採取の意見が出ているようだが、過去の実績はどうなっているか。(委員)
→現在では、石狩川流域では雨竜川のみ許可されている。平成 20 年以降、民間で 9 万 m³/7 年の実績があり、今後も同様の規模を計画している。(事務局)

- ・水防資材について、各地で被害が発生した場合、資材や運搬ルートが不足・使用不可となる可能性も考えられる。現状どのような対応・計画を考えているのか。(委員)
→全道的な連携や各業界との提携を実施しているものの、H28 洪水では不足した状態が発生した。机上と実態が異なるため、寒地土研でこれらを分析して、災害復旧のオペレーションについて基準の見直しを行う、といった取り組みを行っている。(事務局)

(4) 石狩川水系雨竜川河川整備計画 [変更] 案について

- ・目次で P32 の施設能力を上回る洪水の課題があるが、P37 の目標では、注釈程度での記載にとどまっており実態がよくわからない。特徴などを残しておくことはしなくてよいか。(委員)
→P60 に危機管理体制の整備、洪水パターンについて記載しているところ。(事務局)
→両者の意見がわかるので、検討させていただきたい。(委員)

・ P37 について、洪水発生直前からの記載のみにとどまっており、タイムラインの取り組みもあることから、もう少し日常的に行われている対策的な話も入ったほうがいいのではないか。(委員)

→ご指摘を踏まえて、修正させていただきたい。(事務局)

・ P62 について、体制という記載になると組織を作るイメージになる。住民が自発的に取り組めるような記載がほしい。普及啓発活動にとどめるのではなく、住民が知識を吸収し、それを活かすことを意識できるような記載にさせていただきたい。(委員)

→ご指摘を踏まえて、修正させていただきたい。(事務局)

・ 線状降水帯という表現は一般的には分かりにくいので、鬼怒川でも発生していたことから、紹介的に実際の事例を挙げて説明していただけるとわかりやすいのではないかと。(委員)

→注釈・例示や代わりに言葉で表現することが考えられる。事務局と相談して対応したい。(委員長)

・ P67 記載のデータ蓄積は重要である。CCTV や予報情報などのデータ以外の情報についても蓄積をお願いしたい。(委員)

→了解した。(事務局)

・ P48 地震対策について、表現はよいが議論は如何に。(委員長)

→東日本大震災を踏まえて、全国河川共通の表現として記載したものである。(事務局)

以上